



及川所長に寄付金を渡すメンバー

キャンドルを通じた世界遺産を守る取り組み  
平成27年11月26日、世界遺産キャンドルプロジェクト実行委員会のメンバーら9人が平泉文化遺産センターを訪問。中尊寺通りホコ天まつりの会場で世界遺産キャンドルを作るイベントを行い、来場者に募金を呼び掛け集まった5514円の寄付金とキャンドルを同センターの及川所長に手渡しました。寄付金を渡した平泉小学校5年の若槻のどかさんは「ぜひ世界遺産を守ることに使ってほしい」と話していました。

—世界遺産キャンドルプロジェクトに参加してみても—

世界遺産キャンドルプロジェクトでは、大人だけでなく子どもたちも積極的に準備などに参加しています。参加している子どもたちに感想を聞きました。



平泉小学校6年生  
佐川 菜々穂さん

会場ではキャンドルの作り方などを説明していました。みんな楽しそうにキャンドルを作ってくれてうれしかったです。色素を混ぜたチップ作りなど事前準備は大変ですが、すごく楽しいです。

使われなくなったろうそくを再利用することはすごく良いことだと思います。会場ではみんな楽しそうにキャンドルを作っており、このプロジェクトに参加できてすごく良かったです。



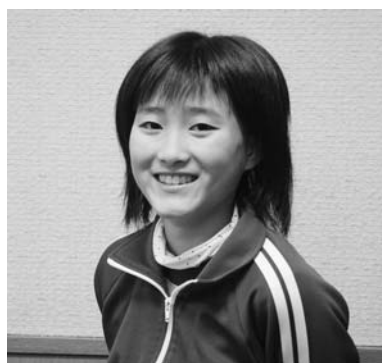
平泉小学校5年生  
若槻 のどかさん



平泉小学校5年生  
野呂 明李さん

数種類のチップを作るなどキャンドルの事前準備は大変ですが、メンバーみんなやっているとすごく楽しいです。とても有意義なこのプロジェクトに参加できて良かったです。

世界遺産キャンドルプロジェクトは準備も含めて本当に楽しいです。ろうそく作りは熱くてとても大変ですが、やってみるとすごく面白いです。



平泉小学校5年生  
千葉 優良さん



みんなが夢中になるキャンドル作り

【特集】新しいかたち—終わり  
「平泉に住んでいる人たち、自分自身が楽しめ、平泉に暮らしてよかったと感じるまち」をコンセプトに始まったプロジェクト。現在では子どもからお年寄りまで誰でも楽しめるイベントとして、世界遺産キャンドル作りは町内の各イベント会場で実施されています。使われなくなったろうそくがオリジナルキャンドルとして新しいかたちに生まれ変わる。そこには平泉にある「安らぎや慈悲の心」が込められています。そして「平泉らしさ」という魅力があります。町民が主体となってまちを盛り上げる新しいかたちが始まっています。

みんなを笑顔にするプロジェクト

平泉の新たな魅力をつくる。

プロジェクトが始動して1年が経過しました。プロジェクト誕生のきっかけ、苦勞、そして今後の夢について世界遺産キャンドル実行委員会のメンバーに話を伺いました。



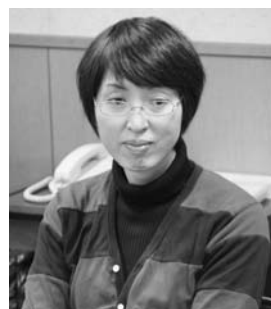
「プロジェクトに取り組みもうとしたきっかけは—」  
野呂 「中尊寺や毛越寺に使われなくなったろうそくがたくさんある」という話から始まりました。そこで中尊寺や毛越寺に世界遺産キャンドルの趣旨を説明し、理解を得ました。現在も材料の提供をしてもらい、ありがたく使わせていただいています。  
—プロジェクトを進めていく中で苦勞した点は—  
千田 最初はアロマキャンドルもやったけど、匂いがダメという人がいた。  
野呂 そうそう(笑)。バニラとかストロベリーなどいろいろな匂いを混ぜてしまったのが原因でした(笑)。  
千田 そしてすぐにアロマキャンドルは却下になりました(笑)。  
若槻 あと当初はキャンドルの色がきれいに出来なかった。色素の微妙な量の違いによって色合いが全く変わってしまう。  
野呂 今見ると最初に作ったものはレベルが違う。制作しているうちにどんどん良くなった。  
千田 作る子どもたちが上手になったのもあると思う。微妙な色合いが作れるようになった。  
瀧澤 あとろうそくの芯の先の



瀧澤 志歩さん(16区)

野呂 子どもたちがお客さんに積極的に関わっている姿を見ると嬉しい。  
若槻 そうですよ。ろうそくの経緯などお客さんに説明する姿を見てすごいと思った。  
野呂 あとキャンドル作りは年

—プロジェクトに取り組み始めた感想はどうですか—  
野呂 子どもたちがお客さんに積極的に関わっている姿を見ると嬉しい。  
若槻 あと当初のキャンドルはとにかく大きいものを作れば良いという感じでした(笑)。  
野呂 その後小さくなっていき、現在のようにかわいいキャンドルになったんだよね(笑)。  
—プロジェクトに取り組み始めた感想はどうですか—  
若槻 あと当初のキャンドルはとにかく大きいものを作れば良いという感じでした(笑)。  
野呂 その後小さくなっていき、現在のようにかわいいキャンドルになったんだよね(笑)。



若槻 睦美さん(13区)



野呂 美帆さん(2区)

—始動して1年を過ぎましたが、今後の夢は何ですか—  
野呂 「復興のともしび」をテーマを取り組んでいます。キャンドルを作ってくれた人たちの願いをのせて、今後も人々の復興への思いをつなげていきたいです。

代問わずに気軽にできるのがいい。そして普通のキャンドルではなく、平泉のメッセージ、浄土への思いも込められるすごく良いアイデアだと思う。  
瀧澤 このプロジェクトは、平泉らしさがあり、可能性を秘めたものだと思っています。  
野呂 関係者だけでなく、キャンドル作りを通して、町民同士あるいは町外との思いもつなげていけると思う。



千田 玲子さん(21区)